

35 難治性腹水に対しエクストラニールでの夜間腹膜透析が有効であった 糖尿病性腎症の1例

佐久総合病院腎臓・膠原病内科 ○佐田竜一、池添正哉、山崎 諭、村上 穰、
樋端恵美子

【症例】40代、女性

【既往歴】10年前、妊娠中に糖尿病を指摘され治療を行ったが、その後放置。

【現病歴】4ヶ月前に近医を受診した際、重症糖尿病、網膜症、ネフローゼ症候群を指摘され治療を受けていた。しかし、腹水貯留・下腿浮腫が強くなったため当院に紹介された。

【経過】入院時の身長は152cm、体重60.2kgであり、腹水貯留と下腿浮腫は著明であった。水分制限、ACE-I/ARB/Ca拮抗剤などの内服による降圧療法、インスリン治療を行いながら、腹水貯留・下腿浮腫に対しアルブミン製剤・利尿剤使用や腹水穿刺を繰り返した。約一ヶ月で48kgまで減量できたため一旦退院したが、2週間後には再度腹水貯留・下腿浮腫が出現し、1ヶ月後には62.6kgまで増加したため再入院した。前回入院と同様の治療を繰り返したがコントロー

ル不良であったため、腹膜透析カテーテル挿入術を行い、同日からエクストラニール1.5L夜間1回貯留を施行した。体重は11日間で約10kg減少し、腹水・下腿浮腫は著明に改善した。食事摂取や全身倦怠感も改善したため約1ヶ月で退院した。その後も夜間腹膜透析を6ヶ月継続しているが、浮腫増悪やカテーテルトラブルなどは認めず、経過良好である。

【考察】糖尿病性腎症によるネフローゼ症候群は、低アルブミン血症による浮腫が著明で腎機能低下も来たし易いため、早期の透析療法が必要となるケースが多い。エクストラニールによる夜間腹膜透析は、体液コントロールが良好に行える上、患者のQOLも向上した。しかも血糖コントロールの悪化は引き起こさなかった。糖尿病性腎症に伴う難治性腹水に対し、エクストラニールによる夜間腹膜透析は有効な治療手段となり得る。